

長崎県立佐世保工業高校が新幹線工事を見学しました

(令和3年11月17日)

令和3年11月17日、季節はずれの汗ばむ陽気の中、長崎県立佐世保工業高校電子工学科2年生の36名が、新幹線の電気設備の現場見学を行いました。

最初に、大村市植松1丁目にある新大村信通機器室をはじめ、高架橋上の本線内や新大村駅のホームにて、新幹線を安全に運行するための設備である、信号・通信・電力といった電気設備を見学しました。

信通機器室では、新幹線の運行を制御する装置や、電力会社から受電した高圧な電力を低圧し分配する装置、また災害時などの電力が絶たれた際でも電気設備を作動させるための非常用発電装置などについて説明を受けました。



新大村信通機器室前で見学内容の説明を受けている様子

本線上では、新幹線がどの場所を走行しているか把握するための仕組みや信号機などの説明を受けました。



本線上での見学の様子

また、新大村駅のホームでは、新幹線の行先などを表示する発車標や、線路内に人がいたり物が落ちているのを発見したときに、誰でも押すことのできる非常停止ボタンなどの説明を受けました。

機構職員の方から、「非常時は躊躇することなくこのボタンを押してください」と話があり、生徒たちも真剣な眼差しで聞いていました。



新大村駅のホームでの見学の様子

次に場所を移動して、大村市竹松町にある大村車両基地を見学しました。

大村車両基地では、基地を一望できる総合事務所の屋上に上り見学を行いました。ここでは電気設備に限らず、屋上から見える各建物の役割についても細かい説明がありました。



大村車両基地での見学の様子



屋上から見える基地の風景

ある生徒から、屋上に設置してある転落防止柵に使われている小さなボルトに関する質問がありました。

基地を一望できる場所にいるにもかかわらず、細かい部分まで注目している視点に、感心させられたところです。



柵に使用されているボルトについて質問している様子

今回の見学会では、実際の現場を見たり・触れたりと肌で感じることができ、学校での授業とはまた違ったかたちで学ぶことができたと思います。

県としてはこれからも、機会があればこのような場を積極的に設けていきたいと考えています。

最後に、お忙しい中、ご説明をしていただいた鉄道・運輸機構のみなさま、ご協力ありがとうございました。